

別紙②

運営推進会議開催報告書

会議名 大野和光園なかよしデイサービス運営推進会議
施設名 大野和光園なかよしデイサービス
サービスの種類 認知症対応型通所介護
会議開催場所 大野和光園 会議室
開催日時 令和元年7月17日(水) 午前 10:30～11:30

<運営推進会議出席者>

構成区分	氏名	備考
利用者の家族	宮本 初代 様	
利用者の家族	廣瀬 ゆきゑ 様	
地域住民の代表者(篠座2区副区長)	清水 勇治 様	
地域住民の代表者(大野地区民生児童委員)	松浦 公子 様	
大野市民生環境部 健康長寿課	宮崎 様	
さくら在宅介護支援事業所(介護支援専門員)	小林 二三子 様	

<施設職員出席者>

職 種	氏 名	備 考
理事長	砂子 三郎	
常務理事	山村 正人	
施設長(管理者)	阿部 静枝	
相談員兼介護員(副主任)(書記)	堀 亜住	

<議事録>

- 1 大野和光園 理事長挨拶
- 2 会議出席者の紹介
 - ・運営推進会議委員
 - ・大野和光園職員出席者
- 3 利用者実績と今後の予測
- 4 活動状況報告について
 - ・平成30年度下期活動状況
 - ・令和元年度上期活動状況
 - ・認知症の生活自立度別利用者状況

- ・空き状況
- ・居宅介護支援事業所別利用登録者
- ・延べ人数平均介護度
- ・利用者の推移
- ・収益と人件費の推移
- ・人件費比率の推移
- ・介護、物損、傷病状況報告
- ・外出、行事等活動報告
- ・職員研修等受講報告
- ・ご家族の皆様への情報発信

5 質疑応答・意見交換

Q ヒヤリハットの記入が資料にないようですが、どうしているのか。

A ヒヤリハットノートがあり、常時職員が記入している。内容としては、利用者に関することから業務に関する事など様々である。記入後は赤字で対応策を考え記入してある。毎朝、全職員が目を通して周知している。

昨日の職員会議にて、身体拘束廃止の研修があった。身体拘束をせずに、介護事故も減らす努力を介護員は行なっていかなければならない。ヒヤリハットの取り組みをしっかりと行うことで大きな介護事故を未然に減らしていけると考えている。又、業務改善の委員会の立ち上げも検討していく。

Q 今月から利用を週5日に増やしたが介護度3では限度額オーバーにならないのか。

A 福祉用具を借りているので少しオーバーします。週3回の入浴なので月に1、2回お休みされると限度額内に収まると思います。担当ケアマネにご相談してみてください。

・認知症の基本法が国で考えられている。認知症の方の尊厳が法制化されてくると思う。現場はこれに対応していかなければならないと考えている。

・和光園は認知症介護実践者研修に積極的に参加している。長期に渡る研修だが認知症利用者にとってとても良いケアができるようになる。研修内で施設内研修を行なっていくうちに職員が目に見えて変わってくるのが分かり(利用者に対しての接し方、見る目、思い等) 質の高いサービスが提供できるようになる。ディサービス正職員はほとんどが受講できている。

Q 見る目が変わるとはどういったことか。

A まず利用者の思い、世界に入り込んで行くことから実習が始まるのでこちらから指示するのではなく、利用者サイドから物事を決めていってもらえるように視点を変えて、試行錯誤するようになっていく。

Q他の施設でお昼がそうめんだけしか出て来ず、物足りなかったといった話を聞いた。和光園ではどうしているのか。

A和光園では月に2, 3回麺類の日があり、必ずパンがついている。和光園の食事は全て手作りで調理しているため、麺類が嫌いな方にもすぐに対応できるようになっている。利用者の楽しみである食事にはこだわりをもってやっており、行事食も多数行なっている。

6 今後の予定及び次回会議について

次回:令和2年1月15日(水) 10:30～ 開催予定